

第7回 気づきを築くユニットケア 全国実践者セミナーin神戸

2008
3/15(土)~16(日)

神戸学院大学
有瀬キャンパス



趣 旨

「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」は、2002年に岡山県笠岡市で開催されたのを皮切りに、これまで全国6か所で開催され、数多くの実践現場から、日々の取り組みが報告されてきました。

ひとくちにユニットケアと言っても、その取り組みの内容は施設によって実に様々です。既存施設を活用しながら、試行錯誤を重ねてようやくユニットケアに至った取り組みがあります。一方で、真新しいユニット型のハードが整っているが、ケアの質が追いつかず、職員もお年寄りも疲れてしまった例もあります。

このセミナーは、「ユニットケアの基本は現場の実践にある」との考えから、現場のスタッフがケアのあり方やスタッフの育成、経営の方向などの実践をまとめ、伝え合い・交わり合い、より良いものにしていく場として開催しています。このセミナーでの発表を機に、お年寄りの表情が変わった、職員が変わった、ケアが変わったなど、数多くの報告が寄せられています。

第7回となります今回のセミナーでは、約150の実践報告を通して、報告者と参加者が共に学び、考え合う場とすることを目的に開催します。

主催：特養・老健・医療施設ユニットケア研究会

3/15(土) 神戸学院大学 有瀬キャンパス(11号館)

時間	内容
11:50~12:00	開会(各分科会会場にて)
12:00~14:05	各部門発表/実践報告リレー 第一部(1発表25分×5施設からの報告)
14:05~14:20	休憩
14:20~16:25	各部門発表/実践報告リレー 第二部(1発表25分×5施設からの報告)
16:25~16:40	休憩
16:40~17:55	各部門発表/実践報告リレー 第三部(1発表25分×3施設からの報告)
19:00~21:00	懇親会

ポスター展示

ポスター展示は、3月15日(土)11:30~17:55が展示時間となります。なお、16:40~17:30は質疑応答の時間となります。

3/16(日) 神戸学院大学 有瀬キャンパス(9号館)

時間	内容
9:30~9:45	開会
9:45~11:05	✓「学び・確かめ・やり直す」現場実践支援講座Ⅰ 住環境から考えるユニットケアでの暮らし
	●大阪市立大学大学院 准教授 三浦 研
11:05~11:25	休憩
11:25~12:15	✓アンコール報告 「ユニットケアを味方にする方法~17の試行錯誤に学ぶ~より」
	●実践報告 ひろた(愛媛県) 部長 松下 ひとみ
	●コメンテーター 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 奥西 栄介
12:15~13:15	昼食休憩
13:15~15:15	✓「学び・確かめ・やり直す」現場実践支援講座Ⅱ 一人ひとりの暮らしを考える「ケアプラン・記録」の大切さ
	●パネラー つつじ苑(千葉県) ユニットリーダー 中谷 美香 晴谷苑(大分県) 施設サービス課長 森本 尊子
	●コーディネーター ジャーナリスト 泉田 照雄
15:15~15:20	開会



●開催期日	2008年3月15日(土)~16日(日)	●参加費	一般参加費:15,000円 ユニット会員・実践発表者:13,000円 ※ユニット「施設会員」は3人まで、個人会員は1人のみ。※実践発表者は2人まで。
●会場	神戸学院大学 有瀬キャンパス 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL:078-974-1551 URL:http://www.kobegakuin.ac.jp	●懇親会費	5,000円
●定員	800人	●申込締切	2008年2月15日(金) ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

●参加にあたっての留意事項
今回の「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナーin神戸」では、会場等の関係もあり、事前にお聞きいただく分科会の希望を受付いたしません。参加者の皆様には各分科会会場に、ご自由に参加いただくこととなります。つきましては、希望される分科会にご参加できない場合、もしくは、立ち見となる場合もありますので、あらかじめご了承ください。
お申し込みいただいた方には、申し込み締切後、分科会の実践報告リレーの一覧と会場案内図をお送りいたします。そちらを参考に分科会にご参加いただくこととなりますので、ご通知おきください。

●申込に関するお問い合わせ先 JTB東北団体旅行仙台支店ECデスク (ご連絡いただくのは東京の事務所となっております。) 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14 ダイハツ・ニッセイ池袋ビル6F TEL:03-5949-1351 FAX:03-5396-8145 ※営業時間:土日祝日除く平日 9:30~17:30	●内容に関するお問い合わせ 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 事務局:全国コミュニティライフサポートセンター(CLC東日本) 担当:園分、湯橋 〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平5-3-18-207 TEL:022-719-9240 FAX:022-719-9251
---	---



実践報告リレーについて

本実践者セミナーでは、現場実践者が、これまでの取り組みを「発表」することにより、自分たちの実践を整理し、新たな気づきを生むものと捉えています。発表を通して全国の仲間と語りあうことにより、ユニットケアの良さや利用者に関わることの大切さなど、実践者同士が交流することを目的としています。



実践者発表テーマ

第1部門 私たちがはじめたユニットケア・グループケア(初級編)

ユニットケアやグループケアに取り組むことになったきっかけや、取り組みのなかで悩んだこと、上手くいかなかった体験など、ユニットケア導入時の苦労や展開方法などについての実践報告です。

第2部門 3大介護からユニットケア(個別ケア)を考える

ユニットケアに取り組むことで、より一人ひとりを重視したケア、すなわち個別ケアが求められるようになります。「ユニットケアを2年、3年と続けていくなかで、利用者の暮らしはどう変わったのか?」「個別の関わりが増えていくなかで、3大介護と呼ばれる食事、排泄、入浴のあり方はどのように変わったのか?」など、ユニットケアに取り組むなかで変化した、個別ケアに関する実践報告です。

第3部門 その人らしい暮らしと“食”を考える

ユニットケアでは、その人らしい暮らしに合わせた「食事」のあり方も重要となります。この部門では、ユニットケアの実践から見えてきた、その人らしい暮らしを支える食のあり方(場づくり、食事づくり、買い物、栄養マネジメントなど)についての実践報告です。

第4部門 一人ひとりの暮らし方から考える住環境づくり

ユニットケアでは、利用者一人ひとりの暮らしに合わせたケアはもちろんのこと、その暮らし場としての住環境・しつらえのあり方も重要となります。この部門では、ユニットケアの実践から生まれた、既存施設の改修や改築の工夫、新設施設的设计などの状況についての実践報告です。

第5部門 ユニットケアにおけるケアプラン・ケア記録

ユニットケアの理念を具体的に進めていくための方法のひとつとして、ケアプランやケアの記録もとても重要となります。この部門では、ユニットケアで求められる「その人らしさを大切にしたいケアプラン」の立て方や実践に生きる介護記録の取り方など、具体的な実践事例の報告です。

第6部門 ユニットケアでの終末期ケア(ターミナルケア)と医療機関との連携

ユニットケアでは、日々の暮らしだけでなく、人生の最期を病院ではなく生活の場(施設)で支えることもあります。「施設での看取り方」「個別ケアを進めるなかから見えてきた医療との連携、そして看取りのあり方とは?」「老いを支えた家族のために、お年寄りが最期を迎えるその前後に、施設は家族や介護者に対して何が出来るのか?」など、最期の支え方・そのための日々の医療機関との関係についての実践報告です。

第7部門 地域に出かける・地域で暮らすユニットケア(逆デイサービス・地域サテライトケア)

逆デイサービスや地域サテライトケアはユニットケアの導入のためにも、地域での暮らしを知るきっかけとしても、非常に意義のある取り組みです。この部門では、ユニットケアから一歩地域に踏み出した取り組みについて、実践報告です。また、逆デイサービスや地域サテライトケアを受け入れる地域の種からの実践報告もあります。

第8部門 専門性をこう活かす!

看護師や理学療法士、作業療法士、栄養士、調理師、その他多くの専門職と呼ばれるスタッフが、施設にはいます。利用者(お年寄り)の暮らしをより豊かにするために、こうした職員の専門性をどう活かすことができるのか、また、ユニットケアを実践するなかで、専門職のスタッフの役割がどう変化したのか、実践事例の報告です。

第9部門 ユニットケアの基盤!職員育成と組織づくり

ユニットケアでは組織のあり方も大きく変わります。当然、職員の力量が求められ、一人ひとりの役割も大きく変わってきます。「ユニットケアに求められる職員像とその育成方法や新人教育の取り組み」、「日々のスーパーバイズの実践」、「ユニットケアのための組織づくり」、「現場の声を上手に活かす組織のあり方」など、職員の気づきを大切に教育や研修、また組織のあり方についての実践報告です。

第10部門 ケアの質を高めるための連携と協働

職員一人ひとりが気づきを得ても、それが他の職員と共有されなければユニット全体、施設全体を変える力にはなりません。また、ときには施設を越えた連携と協力が、現場の試行錯誤の実践を支え、ユニットケアを発展させる力へとつながっています。いくつかの施設がともに研修を行ったり、ユニットの職員同士で悩みや課題を考え合うなど、小規模ケアにおける支え合いと熱い思いに関する実践報告です。

社会リハビリテーション学科



ハート(ひと)とハード(もの)で
福祉を拓く社会リハビリテーション

ハート(ひと)を学ぶ...

「すべての人に社会的支援を」...
この理念のもと、社会福祉専門職者としての能力から、総合リハビリテーション学部の特長を活かした医療分野の知識・技術や生活支援技術まで、理論と実践を有機的に学び、幅広い対人援助能力を備えた専門家を育成する学科です。社会福祉現場実習は、他大学にはない長期間の実習を行い、実践力を養います。

ハード(もの)を学ぶ...

住宅や街の環境のバリアフリーやユニバーサルデザイン、自助具の製作や福祉用具のメンテナンス、コミュニケーション機器で視覚、聴覚に障害のある人を支える技術、効率の良い移動や移乗の方法などを、充実した実習室を用いて実践学習ができます。

神戸学院大学総合リハビリテーション学部では国家試験受験資格を取得できます。
社会リハビリテーション学科:社会福祉士、精神保健福祉士(所定単位の修得が必要)
医療リハビリテーション学科:理学療法士、作業療法士